

3/16 (水) 毎日の食事は健康づくりの要
茨城町食生活改善推進員が新たに11名誕生



町健康増進課において 11 月下旬から約 4 か月にわたり、茨城町食生活改善推進員の養成講習会が行われました。11 名の受講者は、感染症予防対策を講じながらの講義と実習、さらには自宅学習に励み、「栄養・食生活」について学びました。3月 16 日(水)に最終日を迎え、修了証書を授与されました。

これから「茨城町食生活改善推進員」の一員として活動を開始します。町の健康づくりの担い手として保健師や管理栄養士と連携し、地域に根ざした活躍が大いに期待されます。

3/28 (月) 石岡市・かすみがうら市・行方市・小美玉市・茨城町の施設の広域利用に関する協定書を締結



石岡市、行方市、小美玉市及び茨城町の 3 市 1 町（協定市町）は、平成28年に、「石岡市、行方市、小美玉市及び茨城町における公の施設の広域利用に関する協定書」を締結しました。その目的は、協定市町が設置する公の施設を、協定市町の住民が相互利用することによる、利便性の向上や交流の促進です。

この取組みに、今回新たにかすみがうら市が加わることとなったため、4 市 1 町で改めて「公の施設の広域利用に関する協定書」を締結しました。

2/25 (金) 霞台厚生施設組合 余熱利用還元施設 建築工事の安全祈願祭



「霞台厚生施設組合（仮称）余熱利用還元施設建築工事」の安全祈願祭が、施工者である平成建設株式会社によって執り行われました。安全祈願祭には、組合正副管理者をはじめ、工事関係者などの17名が出席し、工事の安全と事業の成功を祈念しました。

余熱利用還元施設は、霞台クリーンセンターみらいの建設に伴い、解体された「白雲荘」に代わる施設として、令和5年春からの稼働を目指しています。

3/24 (木) 常陽銀行長岡支店 小学校新1年生へ防犯ブザー寄贈



町内の小学校新1年生の安全を守るため、(株)常陽銀行長岡支店長（写真左）から、防犯ブザー220個が寄贈されました。

そのほか、次のとおり児童生徒へ向けて寄贈がありました。ありがとうございました。

寄付者（敬称略、順不同）	寄付物品	指定用途
茨城ひぬまライオンズクラブ	生理用品	児童・生徒
水戸地区防犯協会	「いかのおすし」下敷き	新小学校1年生
水戸農業協同組合	交通安全安全帽子	新小学校1年生
(株)ユニクロ	エアリズムマスク	令和3年度 中学校3年生
茨城県石油商業組合	「かけこみ110番」クリアファイル	新小学校1年生
株式会社みずほファイナンシャルグループ損害保険ジャパン株式会社 明治生命保険相互会社 第一生命保険株式会社	黄色いワッペン	新小学校1年生
茨城県トヨタ販売店グループ	集金袋・無地袋	児童・生徒
水戸地区交通安全協会	ランドセルカバー・お守り型交通安全反射材	新小学校1年生
日本マクドナルド(株)	安全笛	新小学校1年生
水戸地区交通安全協会茨城支部	「自転車の安全運転と正しいマナー」ガイドブック	中学校全学年
水戸地区交通安全協会茨城支部 茨城町交通安全母の会	反射タスキ	中学校全学年
茨城町交通安全母の会	反射ステッカー	新小学校2年生
(株)常陽銀行	防犯ブザー	新小学校1年生

2/20 (日) 地域の防災力向上
消防ポンプ自動車交付式(海老沢)



防衛省の施設周辺民生安定施設整備助成事業等により、茨城町消防団第4分団第4部（海老沢）へ新消防ポンプ自動車整備され、町消防本部にて交付式が行われました。

今回の消防車両は3.5トン未満のため、普通自動車免許でも運転が可能であるという特長があります。また、最新資機材が搭載され、複雑多様化する災害での対応力の向上が期待されています。海老沢消防団部長の倉持広昭さんは、「今回の消防ポンプ車を地域防災力の強化と地域の安全安心に、一層貢献できるように有効に活用していきます。」と意気込みを語りました。

2/21 (月) 地域社会を知り、未来を変える力に
茨城東高校「キャリア教育優良学校」及び「IBARAKIドリーム・パス事業」銀賞受賞



茨城東高校がキャリア教育に関する文部科学大臣表彰を受賞したことを受け、町を表敬訪問しました。

同校は 1 学年から 3 学年にかけ、短期・長期の就労体験を段階的に受けることができる制度を確立しており、その充実したキャリア教育環境が高い評価を得ました。

また、同校の時田恭爾さん（3年、写真中央左）と黒田優利さん（3年、写真中央右）が、県教育委員会の主催する「IBARAKI ドリーム・パス事業」において、間伐材を活用した「スウェーデントーチ」のビジネスプランを発表し、銀賞に輝きました。「IBARAKI ドリーム・パス事業」は、地域の課題解決や自身の夢の実現に向けた企画立案・実践活動を通して、挑戦する力を育成することをねらい、令和元年度から実施されています。町の放置林などを有効活用し、キャンプ事業に還元する企画が評価されました。

2/14 (月) 明利酒類株式会社 「災害発生・感染症等流行時における消毒液類の提供に関する協定」を締結



加藤常務取締役 加藤代表取締役会長 小林町長 山中医薬部外品事業部 チームリーダー

町は、明利酒類(株)との間で「災害発生・感染症等流行時における消毒液類の提供に関する協定」を締結しました。この協定は、災害発生時や感染症等流行時において町へ優先的に消毒液を提供いただけるという内容となっており、緊急時の感染症対策のさらなる強化につながります。

また、協定締結に際し、同社の消毒液が町へ寄贈されました。町では、庁舎入口や窓口などに設置し、来庁者の方や職員の感染症対策に活用しています。

2/21 (月) 県央9市町村で連携協約を締結
「いばらき県央地域連携中枢都市圏」



県央9市町村（水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村）は、平成28年度に県央地域定住自立圏を形成し、医療、福祉、観光、地域公共交通など様々な分野における広域連携事業を推進してきました。令和2年4月、定住自立圏の中心市である水戸市が中核市に移行したことに伴い、圏域全体のさらなる発展とこれまでの取組を一層深化させるため、この度連携協約を締結し、「いばらき県央地域連携中枢都市圏」を形成しました。

令和4年4月1日より「地域経済の活性化」や「都市機能の向上」、「生活環境の充実」などに関する計30事業を連携しながら推進していきます。